

地域看護学特論Ⅱ 演習 目標到達度

	達成できた	ほぼ達成できた	不十分な達成	達成できたとはいえない
1. 保健活動に関する事例や先行文献から、健康課題の解決にどのように活用できるかを説明することができる。(A-1)	保健活動に関する事例や先行文献から、健康課題の解決にどのように活用できるかを明確に説明することができる。	保健活動に関する事例や先行文献から、健康課題の解決にどのように活用できるかを概ね説明することができる。	保健活動に関する事例や先行文献を収集することはできるが、健康課題の解決にどのように活用できるかを説明するにはかなりの助言を要する。	保健活動に関する事例や先行文献を収集することができず、健康課題の解決にどのように活用できるか検討することができない。
2. 保健活動の根拠となるデータを収集するための調査計画を立てることができる。(A-1)	文献等を参考にして、テーマに直結した保健活動の根拠となるデータを収集するための調査計画を立案することができる。	文献等を参考にして、テーマに直結した保健活動の根拠となるデータを収集するための調査計画を概ね立案することができる。	文献等を参考にして、テーマに直結した保健活動の根拠となるデータを収集するには、かなりの助言を要する。	文献等の収集が不十分であり、文献集にかなりの助言を要する。また、保健活動の根拠となるデータを収集するための調査計画を立案するには、かなりの努力を要する。
3. 行動変容理論等を用いて、身近なツール（パワーポイント等）を活用した啓発媒体の作成方法を身に付けることができる。(A-1)	行動変容理論等を用いて、身近なツール（パワーポイント等）を活用した啓発媒体を作成できる。	行動変容理論等を理解し、身近なツール（パワーポイント等）を用いて、助言を得ながら啓発媒体を作成できる。	行動変容理論等を用いることを試み、教材の企画を考えることができるが、身近なツール（パワーポイント等）を用いて作成するには、かなりの助言を要する。	行動変容理論等を理解が不十分であり、教材の企画にかなりの助言を要する。また、身近なツール（パワーポイント等）を用いて啓発媒体を自力で作成するにはかなりの努力を要する。